



# 浪花のまちめぐりをしよう！

きんせい (近世)

じだい 時代のようす

きんせい えどじだい おおさか なにわ  
 近世(江戸時代)の大坂(浪花)  
 は、「天下の台所」といわれ、  
 日本の商工業の中心でし  
 た。また町人文化がさかえ、  
 歌舞伎や人形浄瑠璃(文楽)  
 などが流行しました。

どうしまごめいち こめ ねだん き  
 「堂島米市」 米の値段を決めていま  
 す。ここで決められた値段は全国に知らさ  
 れ、全国の米の値段に影響を与えました。



ぎこばうおいち ふね はこ なま ぎょ  
 「雑喉場魚市」 船で運ばれた生の魚  
 介類を仲買人や小売の人たちが買って  
 います。



くらやしき ねんくまい とくさんひん かくはん  
 「蔵屋敷」 年貢米や特産品を各藩  
 の蔵に入れておきました。



なにわのまちは  
 えありにぎわい  
 でおます。



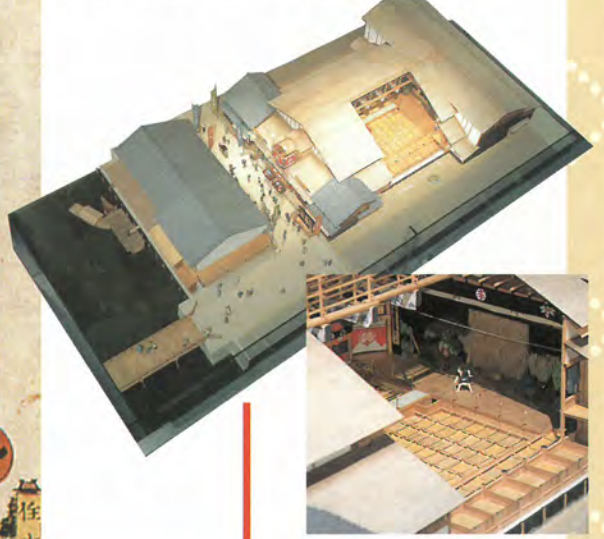
なにわめいしよとりあんない  
 浪華名所独案内  
 えどじだい おおさかめいしよあんない  
 江戸時代の大坂名所案内です。

てんまおもものいち おおさか ちか のうそん  
 「天満青物市」 大坂の近くの農村で  
 作られた野菜やくだものをおろし売を  
 していました。

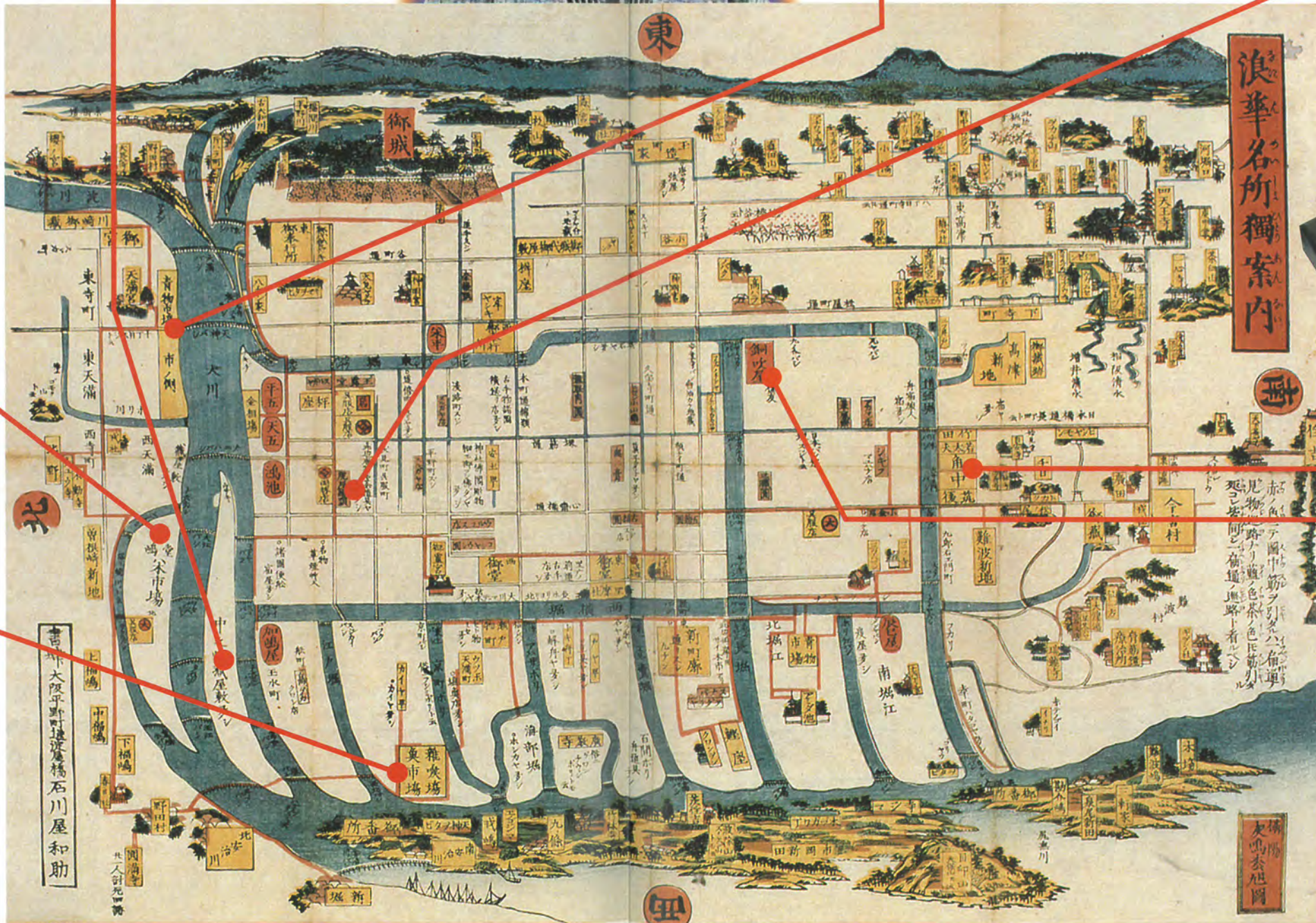
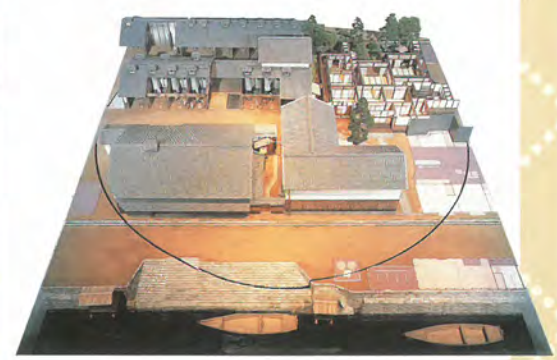


かいとくどう ちやうじん ひら みぶんに  
 「懐徳堂」 町人によって開かれ、身分に  
 関係なく学べる学問所でした。

どうとんぼり しばいまち かぶき にんぎやう  
 「道頓堀」の芝居町 歌舞伎や人形  
 浄瑠璃が上演されていました。



すみともどうふきしよ じゆんどう  
 「住友銅吹所」 純度 99%まで  
 銅を精練していました。銅は鎖国下  
 の重要な輸出品でアジア諸国やヨー  
 ロッパにも輸出されていました。



# てんか だいどころ 天下の台所 おおさか 大坂

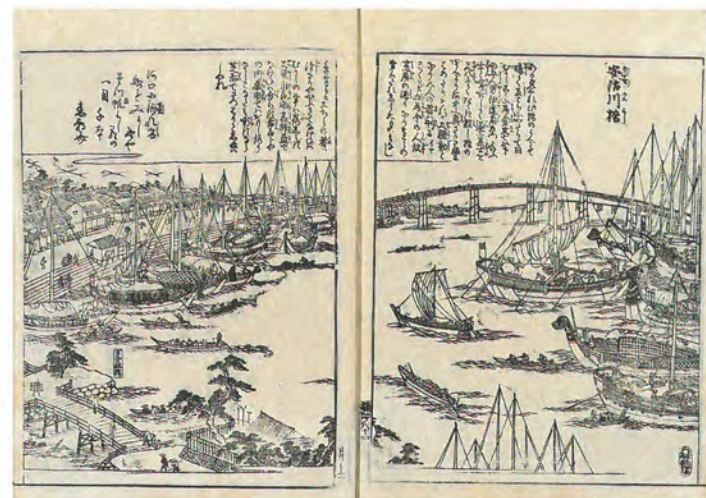
えどじだい おおさか もっと おお  
江戸時代の大坂は、最も多いと  
きで40万人を超える人たちが住  
んでいました。また、流通・経済  
の中心地であった大坂には、全国  
から、たくさんの特産物が集まり、  
また大坂からいろいろな品物を  
移出していました。



▲ 大坂の町と近くの村・町とのむすびつき  
大坂と周辺の村や町は、野菜や木綿、菜種（油の原料）などの生産・加工により経済的に発展しました。都市大坂と周辺の村や町は、さまざまな面でたたく結びついていました。



▲ 北前船の模型（広峯神社—京都府久美浜町）  
北前船は、江戸時代後期から明治時代後期にかけて、北海道や日本海沿岸の港と大坂の間を行き来し、生活に必要なものを売買した船です。



▲ にぎわいをみせる安治川橋付近（摂津名所図会）  
日本各地から米や特産品を乗せ、また大坂からは木綿・油・酒などを運び出す船（廻船）が出入りして、安治川口はにぎわっていました。



▲ 蔵屋敷のあった所

## まち せいかつ 町の生活



衣

▲ 鴻池家に伝わるふりそで



えどじだい ごんれいしやう  
江戸時代の婚礼衣装だよ。  
しよくにん わざ  
職人さんの技のすごさが  
わかるね。



食

スッポンのほねだよ。  
とうじ しよくぶんか  
当時の食文化がうかが  
えるね。

じゆう  
住



▲ 船場の町並み

えどじだい しょうにんじゆうきよ  
江戸時代の商人の住居  
のようすだよ。ほかの  
ひとたちはどんな家に住  
んでいたんだろう？



おおさか  
**大坂に**  
**かかわりの**  
ふか ひとびと  
**深い人々**

ちょうにん ぶんか  
**町人の文化**

え どじだい おおさか ゆた とみ はいけい  
江戸時代の**大坂**は、豊かな**富**を背景に、  
ちょうにん がくもん げいじゅつ げいのう  
町人たちによって**学問・芸術・芸能**など  
の文化が生まれ、発展しました。町人が  
ぶんか う はってん ちょうにん  
大部分をしめる町だったので、自由な発  
だいぶぶん まち じゆう はっ  
想で文化活動が展開されました。

ほかに**は**どんな人が  
かつやく  
活躍したんだろう？



しょもつ  
**書物** いはらさいかく ねん  
**井原西鶴 (1642~1693年)**



おおさか ちょうにん いはらさいかく どうじ せそう  
大坂の町人であった井原西鶴は当時の世相  
ちょうにん ぶし しょうせつ えが  
や町人・武士のくらしをありのままに小説に描  
き、それらの作品は浮世草子と呼ばれました。



い はらさいかく あらわ にほんえいたいごら  
井原西鶴が著した「日本永代蔵」  
さいかく ちょうにんもの だいいょうさく げんろく  
西鶴の「町人物」の代表作で、元禄  
ぶんか しょうちよう さくひん  
文化を象徴する作品。

※町人の経済生活を描いた作品

げいのう  
**芸能** ちかまつもんざ えもん ねん  
**近松門左衛門 (1653~1724年)**



ぶんらくにんぎよう  
▲ 文楽人形のかしら

かぶき にんぎようじょうるり  
歌舞伎や人形浄瑠璃に  
しら  
ついて調べてみよう。



ちかまつ ちょうにん しゃかい ぶたい どりじ じょうるり つく  
近松は町人の社会を舞台にした独自の浄瑠璃を作りました。近松の作品  
おお きょうかん おおさか ひと う い  
は大きな共感をもって大坂の人たちに受け入れられました。

え どじだい まっき めいじじだい  
**江戸時代の末期~明治時代のはじめ**

え どじだい まっき おおさか こんらん なか ま こ  
江戸時代の末期、大坂は混乱のうずの中に巻き込まれていきました。大塩平  
はちろう らん ちょうしゅうせいばつ きち れきし なか どうじよう  
八郎の乱、長州征伐の基地として、歴史の中に登場します。

おおしおへいはちろう ねん  
**大塩平八郎 (1793~1837年)**

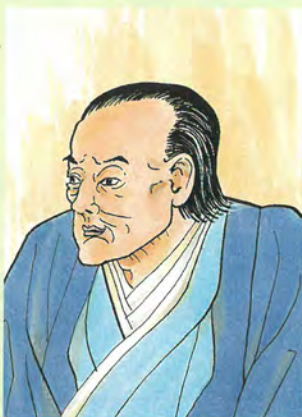


おおさかひがしまちぶぎょうしょ やくにん  
大坂東町奉行所の役人  
せいかつ くる ひとびと すく  
で、生活に苦しむ人々を救  
うために、同志とともに兵  
をあげ、大坂の大商人の  
やしきなどに攻め込みました。



おおしおへいはちろう らん  
▲ 大塩平八郎の乱のようすが  
えが  
描かれています。

お がたこうあん ねん  
**緒方洪庵 (1810~1863年)**



こうあん ぜんこく あつ せいねん らんがく おし ふくざわ  
洪庵は、全国から集まった青年に蘭学を教え、福沢  
ゆきち のち じだい かつやく  
諭吉など、後の時代に活躍するすぐれた人材を数多く  
そだ  
育てました。



てきじゅく  
▲ 適塾  
てきじゅく びつちゅうあしもりはん おかやまけん しゅつしん いがくしゃ  
適塾は備中足守藩(岡山県)出身の医学者・  
らんがくしゃ おがたこうあん ひら らんがくじゅく  
蘭学者である緒方洪庵が開いた蘭学塾です。  
いま どうじ たてもの けんがく  
今も当時の建物を見学することができます。  
(中央区北浜3丁目)

ふくざわゆきち ねん  
**福沢諭吉 (1835~1901年)**



ふくしまく ねん  
▲ 福島区にある福沢  
ゆきち たんじょうち  
諭吉 誕生地の碑

なかつはん おおいたけん しゅつしん  
中津藩(大分県)の出身で、  
なかつはん おおさかくらやしき ふくしまく ふくしま  
中津藩大坂蔵屋敷(福島区福島  
ちょうめ う  
1丁目)で生まれました。適塾  
てきじゅく  
で学び、アメリカへ渡った後、  
まな わた のち  
慶応義塾を開きました。